

三環状の整備効果と今後の検討方針

令和6年 3月 18日

出典:「第3回 大宮駅西口交通結節点事業計画検討会 (R5.12.11開催)」の資料を一部加工

道路ネットワークの現状 -三環状の整備効果-

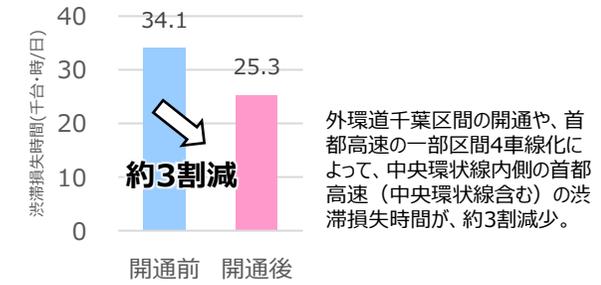
- 圏央道は、都心から約40~60kmの環状道路として鶴ヶ島、川越、桶川、久喜等の都市を結ぶ。
- 埼玉県区間を利用する車両のうち **県内を発着地としない通過交通が圏央道で約3割、外環道で約3割**となっている。
- 3環状の整備により、都心を通行する交通が転換するなどの効果が見られた。

<三環状OD (イメージ)>



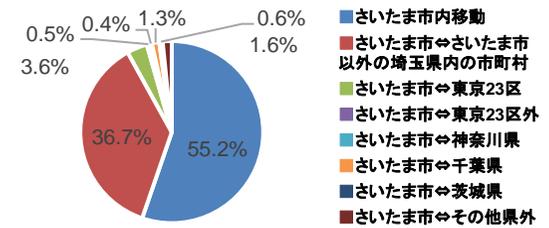
地図出典:NTTインフラネット
 ※1出典:ETC2.0プローブデータ 2022年10月の1か月の交通量の割合(大宮駅直近のIC間を集計)

<東京外かく環状道路(外環)の整備効果例>



出典:国土交通省 H31.1.9記者発表資料
 東京外かく環状道路(三郷南IC~高谷JCT)開通後の整備効果

<自動車によるさいたま市発着地の割合(OD)>

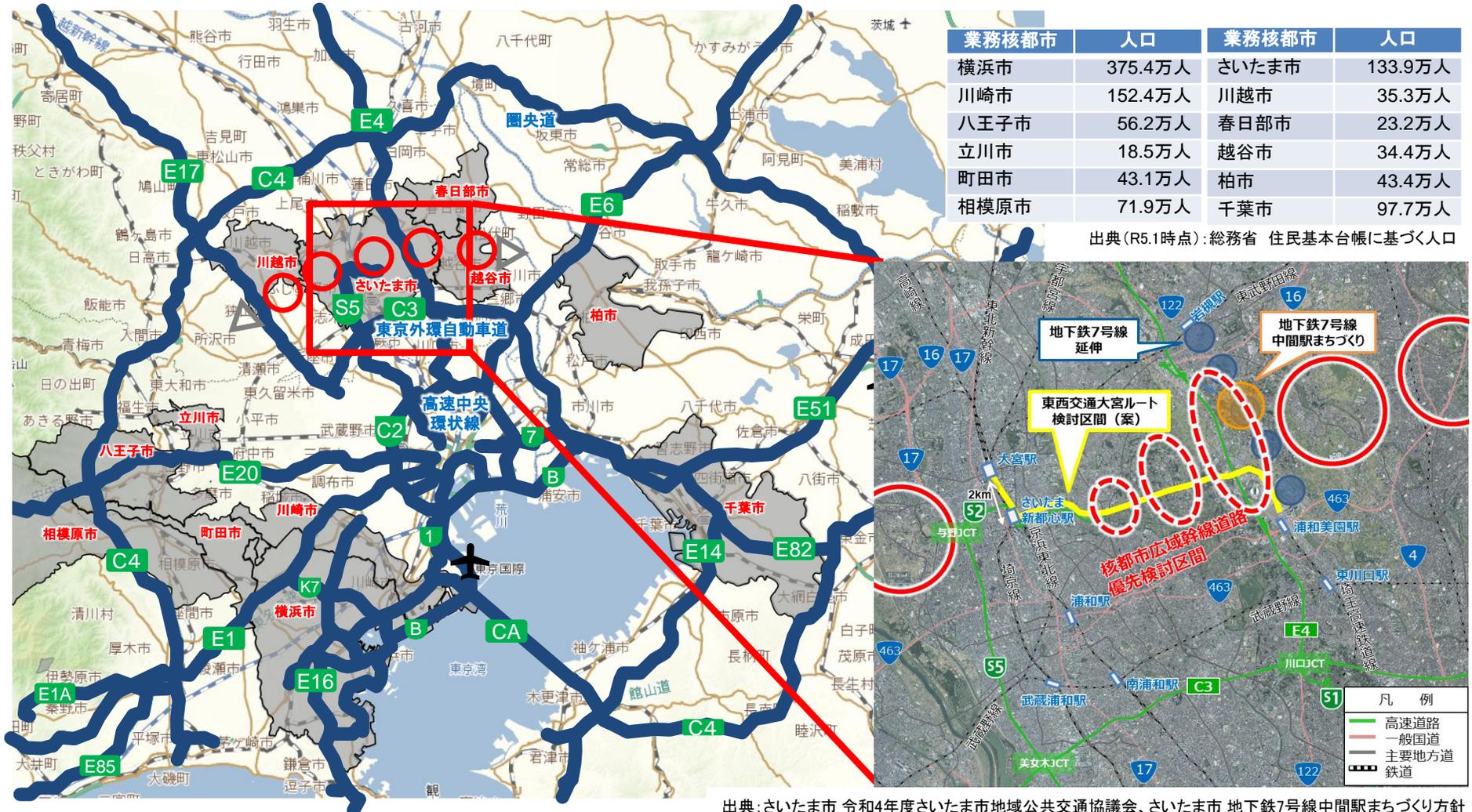


出典:東京都圏調査(H30)をもとに算出

道路ネットワークの現状 -核都市広域幹線道路-

出典：「第3回 大宮駅西口交通結節点事業計画検討会 (R5.12.11開催)」の資料を一部加工

- 「核都市広域幹線道路」は、圏央道と東京外環道の間に並行するように位置し、神奈川、東京、埼玉、千葉を相互に連絡し、これらの交流・連携を促進する広域道路ネットワークを形成する道路として計画。
- 外環道(三郷南～高谷)開通後の交通状況変化等に対応し、埼玉県南部における慢性的な混雑を改善し、物流施設の立地や人口集積が進む圏央道と外環道間の東西方向の連携を強化する観点から、埼玉新都心線～東北道付近間について優先的に検討。



出典：さいたま市 令和4年度さいたま市地域公共交通協議会、さいたま市 地下鉄7号線中間駅まちづくり方針